令和６年10月１日
庁　議　資　料

令和６年度　「狛江市学習状況調査（ＮＲＴ）」の結果　及び　「全国学力・学習状況調査」の結果【小学校】

狛江市学習状況調査

（１）調査実施日
令和６年４月 11 日（木）

（２）調査の目的
◇　児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握、分析する。
◇　分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。

（３）調査対象、実施教科等

調査対象		実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校	第５学年	国語、算数	前学年までに履修した内容	40 分間、配布と回収を含め１単位時間（45 分）を充てる。	630 人
	第６学年	国語、算数			595 人

第５学年

○成果　▼課題

●「狛江市学習状況調査」第５学年の結果

部		内　容	正答率	全　国 正答率	全国比 (全国=100)	全国正答率との比較 ◀ 低い ▼ 高い ▶
国語	1	話すこと・聞くこと	63.6	57.5	111	
	2	書くこと	56.4	53.1	106	
	3	読むこと	58.9	57.1	103	
算数	1	数と計算	68.6	63.7	108	
	2	図形	55.2	54.9	101	
	3	変化と関係	67.9	64.5	105	
	4	データの活用	55.4	52.5	106	

国語の【思考力･判断力･表現力(以下、〔思･判･表〕という)】では、○話の中心を意識して聞くこと、○情報を選び構成を考えて話すことの正答率は高かった。一方、▼考えや感想をもって伝え合うこと、▼目的に応じて工夫して書くことの正答率は低かった。

算数では、○分数【知識･技能(以下、〔知･技〕という)】、○ともなって変わる二つの数量〔知･技〕、○立方体・直方体〔知･技〕の正答率は高かった。一方、▼角の大きさ〔知･技〕、▼割り算〔思･判･表〕、▼表と折れ線グラフなどのデータの活用〔思･判･表〕の正答率は低かった。

第６学年

○成果　▼課題

●「狛江市学習状況調査」第６学年の結果

部		内　容	正答率	全　国 正答率	全国比 (全国=100)	全国正答率との比較 ◀ 低い ▼ 高い ▶
国語	1	話すこと・聞くこと	63.2	61.7	102	
	2	書くこと	69.7	66.1	105	
	3	読むこと	64.3	63.0	102	
算数	1	数と計算	66.7	65.3	102	
	2	図形	66.8	62.9	106	
	3	変化と関係	61.7	56.9	108	
	4	データの活用	62.2	54.9	113	

国語の〔思･判･表〕では、○情報を選び構成を考えて書くこと、○目的の内容に応じて話の内容を捉え話すこと･聞くことの正答率は高かった。一方、▼読んで考えや感想をまとめ伝え合うこと、▼情報を選び構成を考えて話すことの正答率は低かった。

算数では、○整数と小数の仕組み〔知･技〕、○二つの数量の関係〔知･技〕、○立体図形の性質、体積〔知･技〕の正答率は高かった。一方、▼整数の性質〔思･判･表〕、単位量当たり、速さ〔思･判･表〕、▼円グラフや帯グラフなどのデータの活用〔思･判･表〕の正答率は低かった。

全国学力・学習状況調査

（１）調査実施日
令和６年４月 18 日（木）

（２）調査の目的
◇　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇　学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇　取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（３）調査対象、実施教科等

調査対象		実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校	第６学年	国語、算数	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項	45 分間（準備・回収含めない）	590 人

（４）調査の内容
◇　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
◇　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

第６学年

○成果　▼課題

●「全国学力・学習状況調査」第６学年の結果

教科		内容	狛江市正答率	全　国正答率	全国比 (全国=100)
国語		全体	69.0	67.7	102
	知・技	言葉の特徴や使い方	65.8	64.4	102
		情報の扱い方	88.9	86.9	102
		我が国の言語文化	79.6	74.6	107
	思・判・表	A　話すこと･聞くこと	60.7	59.8	102
		B　書くこと	67.5	68.4	99
		C　読むこと	71.1	70.7	101

教科		内容	狛江市正答率	全　国正答率	全国比 (全国=100)
算数		全体	67.0	63.4	106
	領域	A　数と計算	69.4	66.0	105
		B　図形	71.3	66.3	108
		C　変化と関係	57.2	51.7	111
		D　データの活用	65.3	61.8	106
	観点	知識・技能	75.7	72.8	104
		思考・判断・表現	56.7	51.4	110

国語では、○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方〔知･技〕の正答率は高かった。一方、▼資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること〔思･判･表〕の正答率は低かった。

算数では、○数量の関係を、□を用いた式に表すことができること〔知･技〕の正答率は高かった。一方、▼道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できること〔思･判･表〕、▼折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できること〔思･判･表〕の正答率は低かった。

狛江市学習状況調査（NRT）と全国学力・学習状況調査結果の考察

第３期狛江市教育振興基本計画(令和２年３月)では、狛江市教育委員会教育目標(２)の確かな学力の定着と個々の能力や創造力を伸ばすことを達成するため、これらの学力調査の結果を基に、児童の思考力、判断力、表現力等の資質・能力を伸ばすための国語、算数における授業改善のポイントを考察した。

国語では、情報を選び構成を考えて話したり、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫すること〔思･判･表〕に課題がある。今後は、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することが身に付けられるように授業改善する必要がある。児童が、相手や目的を意識し、言葉だけでは伝わりにくい内容については、適した資料を活用して表現する学習が重要である。また、情報活用能力の育成については、他教科とも関連させて取組を推進する必要がある。

算数では、単位量当たりの速さを求めたり、道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること〔思･判･表〕、円グラフや帯グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること〔思･判･表〕に課題がある。今後は、生徒が見いだした数表や式、グラフを用いてその関係を表現し、変化や対応の特徴を捉えていくことができるように授業改善することが重要である。

令和６年 10 月１日
庁　議　資　料

令和６年度　「狛江市学習状況調査（ＮＲＴ）」の結果　及び　「全国学力・学習状況調査」の結果【中学校】

狛江市学習状況調査

（１）調査実施日
令和６年４月 11 日（木）

（２）調査の目的
◇　生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握、分析する。
◇　分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。

（３）調査対象、実施教科等

調査対象		実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
中学校	第１学年	国語、数学、英語	前学年までに履修した内容	45 分間、配布と回収を含め１単位時間（50 分）を充てる。	459 人
	第２学年	国語、数学、英語			402 人
	第３学年	国語、数学、英語			446 人

第３学年

○成果　▼課題

●「狛江市学習状況調査」第３学年の結果

	部	内　容	正答率	全国正答率	全国比（全国=100）	全国正答率との比較（◀低い　▼　高い▶）
国語	1	話すこと・聞くこと	67.1	64.4	104	
	2	書くこと	62.4	57.3	109	
	3	読むこと	53.5	52.8	101	

国語の【思考力･判断力･表現力(以下、〔思･判･表〕という)】では、○話の内容を捉えること、○考えが伝わるよう工夫して書くこと、○主題や構成を読み取ることの正答率は高かった。一方、▼感想やまとめを伝え合うこと、▼要点を捉え内容を解釈することの正答率は低かった。

	部	内　容	正答率	全国正答率	全国比（全国=100）	全国正答率との比較（◀低い　▼　高い▶）
数学	1	数と式	68.6	67.4	102	
	2	図形	67.4	65.2	103	
	3	関数	50.4	48.5	104	
	4	データの活用	60.4	59.2	102	

数学では、○式の計算【知識･技能(以下、〔知･技〕という)】、○四分位範囲や箱ひげ図〔知･技〕○三角形の合同、証明、図形の性質〔思･判･表〕の正答率は高かった。一方、▼１次関数〔思･判･表〕、▼場合の数を基にした確率〔思･判･表〕、連立方程式〔思･判･表〕の正答率は低かった。

	部	内　容	正答率	全国正答率	全国比（全国=100）	全国正答率との比較（◀低い　▼　高い▶）
英語	1	聞くこと	72.3	64.6	112	
	2	話すこと	67.9	62.1	109	
	3	読むこと	66.3	60.6	109	
	4	書くこと	67.4	58.1	116	

英語では、○語や文を正確に聞き取ること〔知･技〕、○英文を正しく読み取ること〔知･技〕、○必要な情報を判断し、読み取ること〔思･判･表〕の正答率は高かった。一方、▼長文の概要や要点を読み取ること〔思･判･表〕、正しく話したり発表したりすること〔知･技〕、適切な表現を用いて英文を書くこと〔思･判･表〕の正答率は低かった。

全国学力・学習状況調査

（１）調査実施日
令和６年４月 18 日（木）

（２）調査の目的
◇　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇　学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇　取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（３）調査対象、実施教科等

調査対象		実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
中学校	第３学年	国語、数学	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項	45 分間（準備・回収含めない）	449 人

（４）調査の内容
◇　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
◇　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

第３学年

○成果　▼課題

●「全国学力・学習状況調査」第３学年の結果

教科	内容		狛江市正答率	全国正答率	全国比（全国=100）
国語	全体		62.0	58.1	107
	知・技	言葉の特徴や使い方	64.4	59.2	109
		情報の扱い方	62.8	59.6	105
		我が国の言語文化	75.7	75.6	100
	思・判・表	A　話すこと･聞くこと	60.8	58.8	103
		B　書くこと	71.8	65.3	110
		C　読むこと	52.5	47.9	110

教科	内容		狛江市正答率	全国正答率	全国比（全国=100）
数学	全体		59.0	52.5	112
	領域	A　数と式	57.1	51.1	112
		B　図形	49.0	40.3	122
		C　関数	65.8	60.7	108
		D　データの活用	61.5	55.5	111
	観点	知識・技能	68.5	63.1	109
		思考・判断・表現	37.7	29.3	129

国語では、○目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができること〔思･判･表〕の正答率が高かった。一方、▼文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること〔思･判･表〕の正答率は低かった。

数学では、○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができること〔知･技〕の正答率は高かった。一方、▼事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができること〔思･判･表〕、▼事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができること〔思･判･表〕の正答率は低かった。

狛江市学習状況調査（NRT）と全国学力・学習状況調査結果の考察

第３期狛江市教育振興基本計画(令和２年３月)では、狛江市教育委員会教育目標(２)の確かな学力の定着と個々の能力や創造力を伸ばすことを達成するため、これらの学力調査の結果を基に、生徒の思考力、判断力、表現力等の資質・能力を伸ばすための国語、数学における授業改善のポイントを考察した。

国語では、感想やまとめを伝え合ったり、文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること〔思･判･表〕に課題がある。今後は、文章の論述の過程には書き手のものの見方や考えの進め方、論理の展開を捉えることができるようにすることや、出来事の印象を深めたり次の展開への期待を促したりすることなど、多様な工夫があることを捉えることで文章の内容を正確に理解できるように授業改善することが重要である。

数学では、１次関数の事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること〔思･判･表〕に課題がある。今後は、数学的な表現を用いながら他者に説明するような場面を意図的に授業に設けるようにすることや、自分の表現を他者の表現と比較したりすることにより、事象の考察を深めることができるように授業改善を行うことが重要である。